

幼童手以草
三
上

607
共
六
本

館總店會育私本日大			
册	號	架	函

三
本

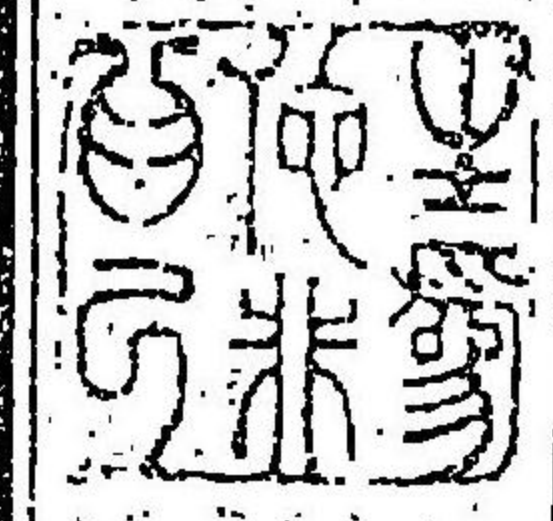
杉田玄端譯

三編

幼童手引草

明治甲戌年
第八月發兌

致高館藏版



幼童手引草三編卷之上

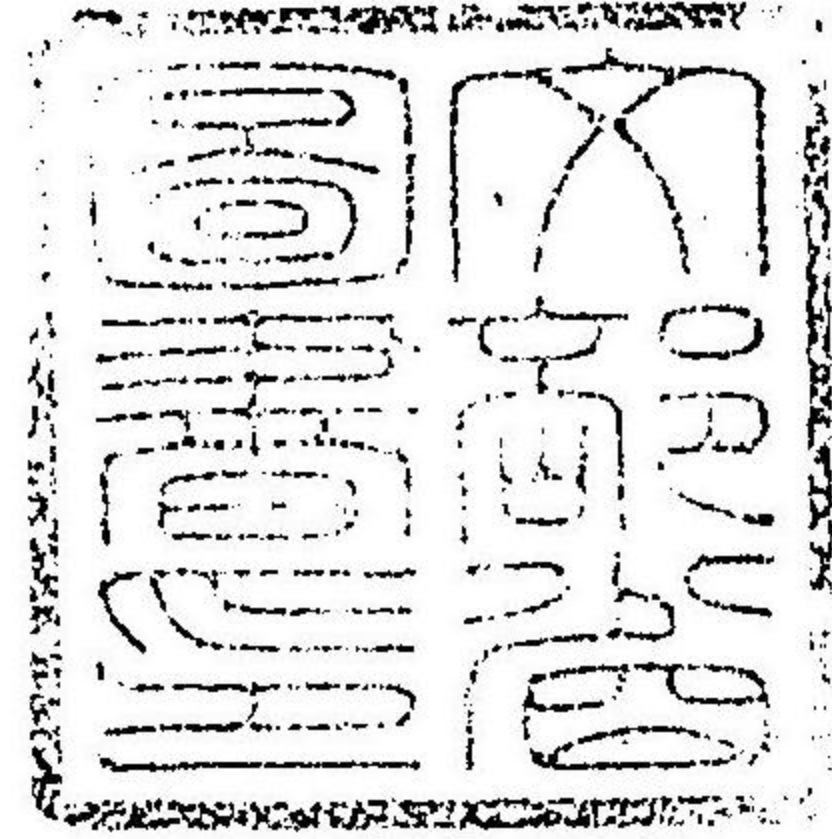
目錄

- 阿刺伯護謨及以粘料 第一葉
- 紙 第二葉
- 膠汁 第四葉
- 翎筆 第七葉
- 鋼筆 第九葉
- 信局 第十葉
- 泥紙及皮紙 第十一葉
- 封蠟 第十三葉
- 朱砂及以抹紙膠 第十四葉
- ゲツメペル 第十七葉

幼童手引草三編上

目錄

致高館藏版



幼童手引草三編卷之上

目錄

- 阿刺伯護謨及び粘料 第一葉
- 紙 第二葉
- 膠汁 第四葉
- 鋼筆 第九葉
- 翎筆 第七葉
- 信局 第十葉
- 泥紙及皮紙 第十一葉
- 封蠟 第十三葉
- 朱砂及び抹紙膠 第十四葉
- ゲツペル 第十七葉

杉田玄端譯



幼童手引草

明治甲戌年
第八月發兌

致高館藏版



三編上

三編上

目錄

致高館藏版

石筆 第十九葉

膠及び海棉 第二十葉

柘 第二十一葉

タルロウ及び蠟燭 第二十三葉

燈籠祭 第二十四葉

蠟樹 第二十五葉

蜜蠟及び麻 第二十七葉

漂白 第二十八葉

ケムブリック及び「ラウン」 第三十一葉

ダマス 第三十三葉

如童手引草三編卷之上

沼津 杉田擴玄端 譯

問

阿喇伯護謨とは怎麼様のも乃ありや、

答

普く知れ渡りたる乾薬あり、埃及土耳其及

び波斯灣の近傍に産する樹液にして櫻桃及

び桃の膠乃如く皮より出づるをり、

問

阿喇伯護謨ハ有用の乾薬ありや、

答

然り、以前ハ多く薬劑にのぞ用ゐたれ共方

今ハ染工及び水繪具等を製する者専ら之を
貴重にするあり、

問 其ハ又上好の粘料ネリあらすや、

答 然り、白酢シラハ溶かせバ骨牌カシ等を造るハ甚た
好ヨシ一物モノあり

問 但一常醋ツツハ之れを造るに宜ヨシからすや、

答 然り、只色の宜ヨシからざるの之、何の醋シラハ
之を造るハ拘塞コルを以て密封一置く時ハ少
く乾くカラふツべし、

問 「ポウンス即チサンダラック」とハ怎麼様のもの乃

ありや、

答 常杜松樹ノリの膠カネあり、之を細末コメと名ナけ
て細篩コメ

かて通過スルするものヲを「ポウンス」と名ナけ書記紙シ
乃面の磨指シせる處トに用ゐるあり、

問 「サンダラック膠を多く用ゐるものハ誰ぞや、
答 箱ハコエハ於キて之ヲを用ゐ、又彩画工サイガ假漆カシを製す
るに用ふ、

問 紙ハ何を以て製するや、

答 麻布及び棉布の片屑カケを以て製し、又藁ワラ或ハ
他の線質物センシツモノを以て製する共麻布棉布の片

屑を以て製はるもの、如く良あらず、

問 唐山ふてハこれは何物より製するや、

答 絹を以て製せり、

問 通常の書記紙を製はるふハ色何る片屑を

漂^{サラス}白^スはるゝあさや、

答 漂白するゝ所、併あが上好の白を書記

紙を製するふハ白を片屑を以ては、

問 紙ハ如何して之を製するや、

答 先^ツ其片屑を撰^{ニリ}分^レけて白を紙に製

する料とあり、色あるものハ更ハ粗紙^{粗紙}を製は

るに用ふ、

問 それより之を如何にあせしや、

答 これを磨^磨ふ上^上せて一器に清水を盛り、其中

か入るゝあり、

問 其器ハ何を以て製せりや、

答 其ハ鐵^鐵ふて製は、此器ハ鋭利ある長を齒

即^即小刀數枚を具するを以て此中に片屑を入

れて速^速く旋轉^{回転}する時ハ直に之を分裂して糊

状のものにあはべし、

問 其後ハこれを如何にあせしや、

答 其糊状物と温湯の入りたる鍋中に入る、然る時ハ恰も糊の稀解せるもの、如くとなる、此に於て紙葉の大なる型模を其内に浸入し、るあり、

問 其型模ハ何物に似たるや、

答 最好の細線網を以て製したる匡格に似たりと云、

問 其後ハ之れを如何なるせりや、

答 其型模を糊中に入れ要とをるだけの厚さに抄ひ、好く搗振て紙に製するあり、

問 其後ハ如何なるせりや、

答 一葉づ、毛布二片の間に挟み之を歴して扁平とす、其後一葉づ、索に掛けし乾く、

以て膠を施しあり、

問 何故に紙に膠を施せりや、

答 紙質に墨汁の滲透し又散漫するを防ぐが為なり、但し其膠を施さざる紙ハ之を無膠紙

ペーパーパルプヤ名づく、

問 膠汁の類なり、

答 膠汁の類なり、

問 如何して之を造りや、

答 羊皮の切片及び羊胎皮の片屑を以て之を製すれ共羊胎皮より製する膠を以て上品とあり、

問 右の諸工作の殆ど速に説示するに能はざるや、

答 然り、追々最良の器械發明ありければ今日に至りてハ全く備具して糊を以て數分時中ハ最細微の紙葉とありしむ、

問 但し最上の書記紙ハ今も尚手ふて製造は

るにあらざるや、

答 然り、

問 紙ハ既に往昔に於て知れ渡りたるや、

答 但し往昔の紙ハ我輩の用ぬるもの如くからば、埃及人ハ「パパイリス」と名くる水草を以て之を製せり、紙を「ペーパー」と稱するハこれガ為なり、

問 其水草ハ何地ハ生ぜりや、

答 埃及國の尼羅河畔ハ多く生ぜり、其草ハて造りたる籃内に現出たりと云

人ハ誰ぞや、

答 摩西あり、其土の人ハ今も尚其草を以て布、
席ハシゴ索オグサ等ト織オリ成ナせり、

問 製紙磨シヤウを始めて建設せしハ英國の何地か
りや、

答 千五百八十八年我天正根的の「ダルトホル

ド地名「ギョンスピールメン」と云へる日耳曼人

之を建設せり、蓋し此人ハ女王エリサベツトよ
り貴官ハ取立ラられたり、

問 然ル共衆人尚ホ此を疑ハざりや、

答 然り、「シヤウクスピール」事ノ顯理第六の條下ハ

製紙磨の吏を記載して、此ハ英國にてハス

ピールメンの時より前ニ建設せし相違ハ

かるべし、然ルハスピールメンハ多分ハ工場イラバ

乃改正ヲ行ひテふるべし、

問 製紙術ヲ成功セしハ誰ぞや、

答 「トーマス・ワットキンズ」ト云へる一紙商ノ

て其時代の千七百十三年我天正徳ハ在り、此人

専ら製紙ハ術ヲ盡スるニ因り、今無數の製

紙局ヲあラしメ至ルなり、

問 紙の用ハ「ハロルド」の時ハ未ダ知レ渡ラズ
リーヤ

答 然リ、而シテ英國ハ其國固有の製造局
ヤ、其法ヲ設クルト遅カリシ、

問 紙ヲ張付ル用ルニ如何程ノ久シキヤ
答 約モルハ二百年許アリ中古ハ壁面ヲ掩ル
ル掛物ヲ以テセリ、然レ共一般ニ之を用ル
ルニ甚ダ高價ナリシ、

問 其目的ハ違センニ如何の法ヲ取ルヤ
答 各色の物を細ク小判トシ之を紙上ハ壓定

一形ト云ハナリ、

問 更に手早ハ新法を見出スニヤ

答 然リ、方今廉價の紙ハ諸色ヲ一時に施テ旋
轉圓柱を以テ形ヲ着ルアリ、

問 其器械一個ハ一日に幾許尋長の紙ハ形
ヲ印スルト得ルヤ、

答 一萬八十尋以上あり、而シテ其模型ハ一里
半の長ハ紙ハ形ヲ印クベシ、

問 然レバ之ヲ切ルニヤ
答 然リ、十二尋フ、の長ハ切ルアリ、

問 「パピール・マセ」といふ甚麼様のものありや、

答 甚だ厚く濕潤なる紙を製する法を云、此紙
よてハ茶葉箱・衣箱・文書袋及び其他の美什を
製すべし、

問 其ハ如何してこれを製せりや、

答 之ハ二種あり、其常品ハ既に製したる紙を
數葉相附帖して製し、其上品ハ紙を再び糊状
とふし之を模型の中ハ壓入して製するあり、

問 翎筆ベハ甚麼様のものありや、

答 其ハ書記カ不用る器キ什モノしてテ鵝吐カラス絞カラ雞ケン糞チヲル

問 孔雀及び鶯の翼ハネを以て製せり、

答 孔雀クワン及び鶯ウの翼ハネを以て製せり、
生活中年々羽翼を脱する貪鳥ハ何と云へ
るや、

問 雁ガンハ沼中ハ膠カく留トりたり、

答 然り、此鳥ハ一年中ハ五回ゴ此苦痛クツ小罹カるが
由ユへに其糞クソを以て我臥ワ蓐ソ屨シ枕ク及び耳枕ミミを填ミ

問 如何イカニあり有名ナ支件シケンハ因りて斯人コノヒトハ「ミケ」

答 充チるの用ヨウハ當タるあり、

問 如何イカニあり有名ナ支件シケンハ因りて斯人コノヒトハ「ミケ」

ルメステルニ祭日あり第九日あり雁を食するを
記念とするや、

答 是班牙海軍の敗北を記念とするあり、女王

エリサベツツハ其新聞を得し頃午膳ありける

が命トて以後ミケールメステルハ必以雁

を下飯ハ供をべしと云ひたり、

問 然れ共往昔の習慣を今に用ゐるは其説ハ

感徳あるに何れや、

答 然り、

問 今日まがも蓋管ハ文字を記するハ何地

の民ありや、

答 土耳其人黒人ルモ一及び東方諸國の民人ふ

り、

問 往昔ハ何物を以て文字を記せしや、

答 鐵條を用ゐたり、而して其一端ハ文字を記

し易きガ為ニ針の如く尖銳ハ他端ハ之

を削り落すガ為ニ尖銳ハさびて幅廣く

あり、

問 右の鐵條ハ何物ニ文字を記せしや、

答 蠟の小版上に記せしあり、然れ共「パイ」と

ハ或ハ「バルチメント」皮ハ記するハ蘆管を
用ゐたり、

問 雁・蜂及び犢・世上を支配する云支を賦言と
し説示せしハ誰そや、

答 「ミストル・ホーウル」あり、此人の説ハ雁ハ鋼
筆を出し蜂ハ蠟を産し犢ハ皮を給せりと云、

問 翎筆ハ如何なる新發明ありしより専ら慶
多々ハ至れりや、

答 「ビルミングハム」於て鋼筆「ヌバチ」を發明
せしよりあり、

問 此物を製造するハ幾多の双手を要する
や、

答 数千の双手を要し、而して之を為に一箇年
費を所す鋼ハ數百噸ハ及びべり、

問 一噸の鋼より幾多の鋼筆を製造せりや、

答 殆ど二百萬個ハして其大分ハ外國ハ輸出
せり、而して其落成ハ至るより十四處の手數
を経るあり、

問 外國中如何なる國ハ翎筆を以て足れりと
するや、

答 波蘭普魯社あり此國々ハ魯西亞より亦羽翹を輸入せり、

問 始めて英國の信局オヒストを建設せハ誰そや、

答 「チャールズ第一あり、此君主ハ一週中ハ一次倫敦と壹丁不との間ハ書信を通るは局を置たり、

問 此利益を大ハ擴充せハ誰そや、

答 「オライフル・コロムビル人あり、

問 近年信局の事務ハ甚テ廣大ハあらざり

や、

答 然り、是千八百四十年我天保の書簡の大を同く一其代料を一ペニ我銀九分づ、

せよりあり、

問 畢竟それより何支を生ぜりや、

答 方今ハ在るハ、信局より輸ハ書簡の數年々五萬萬の上ハ至り、此支ハ信局總裁の告知ハ據るハ千八百五十七年我安政ハ於てハ已前の仕方より取扱ふよりハ其數六倍なるに似たりと云、

問 泥紙ホルストボとの如何なるものありや
 答 数葉の紙を共ニ泥とありて壓プレス固め造りたる骨牌ボを云、

問 皮紙ペーパートダとの如何なるものありや
 答 羊及び山羊の皮を石灰水の井イ中チに投ナじ

軟化し製シたる紙あり、而して之を書記シに適當せしむるもの其面を水スにて濕シ其上の粉未コせし浮石シを摺シ付くるをり、

問 これを創意ソウイせし人誰ありと云へるや、

答 「ペルガムスペルガムス」名地名地乃王王「ユーメニスユーメニス」云へり、然

れ共此王ハ創意者ソウイと云ハれり、修繕者ソウケンと云ハれたり、

問 何故ハ斯クハ思ハれたるや、

答 其ハ波斯人ペルシヤ及び他國人「ユーマニス」の出でさる前既ハ久しく其記録を以て皮ヒに記せりと云ふハ因り、然る共埃及國の王「プロレミ」ハ之を「ペパリス」蘭蘭より濟スりたるを嫌ひて其代に獸皮を製シるに意を注スたり、
 問 古人ハ甚ど羨シふる手書シヨモクを作るハ注意する
 こと大あらばや、

答 然り、其書冊の縁ふ飾るは黄金を以て、其紙葉「パル」を染むるに紫色を以て、又墨汁「カウ」の黄金液を以てを名の外、其表紙ハ寶石を鑲めたり、

問 古物中貴重と云ふ二坐の書堂ハ何地「ア」ありや、

答 「アレキサンドリア」の書堂ハ埃及の國王「プロレミ」の聚むる所あり、「パル」ガム「ハ」の書堂ハ「ユリ」の聚むる所あり、而して其「ペルガム」の書堂ハ「マーク・アンド・ニ」を「ク」

レオパトラ「ハ」の与へけるハ其人之を一ハ併せたり、然る最惜むべしハ紀元六百四十二年我皇極「ハ」サラセン「ハ」の法を弘の為ハ焼失せられしなり、

問 紙葉「パル」ハ甚麼様のものなりや、

答 幼犢の皮あり、此ハ通常の皮紙よりハ密に

して白く且滑澤あり、

問 方今ハ何の為に多く「パル」及「パ」ナメントを用ゐるや、

答 紙よりハ久しく保たざるを其業を記する

か用ふ、依て状師ルロエハ之を多量に用ゐるあり、

問 其ハ何地か、専ら製し出せりや、

答 佛蘭西あり、

問 封蠟^{グシ}ハ甚麽様のもなりや、

答 其ハ紫鉛^{グシ}と朱砂^{シロ}及び威尼斯的^{ニシ}列並^レを以

て製すべし、而して其製法ハ紫鉛と的列並とを火上に溶解し、朱砂を以て適意の色彩を施すあり、

問 紫鉛^{シロ}と如何なるものありや、

答 東印土にある許多の樹上に昆蟲の造りたる

る物体あり、

問 朱砂ハ如何、

答 紅色の礦物あり、水銀に専ら之より採収し

問 其礦を出す大坑ハ何地か、在りや、

答 是斑牙のアルマテ^シ、匈牙利及びタラシル

口ニ在り、

問 抹紙^シ膠^シハ如何なる物なりや、

答 幾内^{カニ}アイト^カ、イエン子^シ及び他乃南亞墨利加諸地に産するシリシ^リと云へる大樹

乃液を乾かしてなるものあり、

問 其ハ叢林中の最莊嚴なる樹木の列を
みるや、

答 疑なく之の列せり、其故ハ其樹只ハニ一
ツリ一の次位なるものあり、其樹只ハニ一
の要より之を分つて、其密なるを測る
は、比して其巔百尺の上の抽き且其枝極廣
大なる面ハ布護るべし、

問 其液汁ハ如何して採るべきを得るや、
答 皮面に横截を造りて其下の地を窪くし

而して之を流れらるる液を採るが為ハ其
内ハ木葉を粗厲なる碗の形ハ重ねて敷く也、

問 其液の色ハ甚麼様ありや、

答 佳品ハ甚だ美白色なり、殆ど乳汁の質に
似たり、其始めハ夜中速く流出るれ共二三日
を經る時ハ截口ハ層を造りて留るるあり、

問 如何して我輩の用に充るる状に變りや、
答 其所要として造りたる型模中ハ其液を散
布するあり、

問 然して之れを如何にあせりや、

答 其液の入りました型模を全く乾くまで煙の上へ掛け置く時ハ片々ハ破碎をへくあり、
 摩擦の用ハ適するあり、

問 土蕃ハ其を何変ハ用ゆるや、

答 水を火把ニ作り又靴子・壺子及び一種の

衣服を製して何れも水の浸入を防ぐあり、

問 我輩ハこれを何変ニ用ゆるや、

答 久しく只石筆の黒斑を消する為ハのて用

ありたり、去ふがう近頃數年來之を以て諸種
 物什を造り出せり、

問 如何ハ造るや、

答 諸般の試験を経て後、其彈性を失ふてよく

溶解をへると發明せり、

問 彈性とい甚麼様の事を謂ふや、

答 其ハ之を屈折し之を壓縮するも之を過む

れば再び以前の形状に復する體性を云あり、

問 其最良の溶解藥ハ何物を發明せりや、

答 亞的兒石炭油・ナフタ及び三桎烏藥油あり、

問 其溶解せるものを怎麼様ハ用ゆるや、

答 其溶解したる膠を布上に塗抹し其上に復

た塗抹一又塗抹一了相共ふ也を歴定一以て其より外套衣囊枕及び却水諸什を製する也

問 有智の人此有用なる物を應用して日々新發明を得たりや

答 然り、鯨鬚の代として錨索・馬腹帶及び外科所用の紐帶ハ今皆此膠を以て造り成せり

問 此膠より燈に用ゐる油を取るといふや

答 然り、蒸餾して惡臭を去る瓦斯の如き微細なる光輝を發せり

問 此膠を全く固形体にするハ近時發明し

る所不詳なりや

答 然り、其製法を経て後之を蒸氣の壓力に當れば堅脆の質となれ共破碎し難しといふ

問 此の如くふりたるといふ何の用を成りや

答 櫛又ハ厨櫃ふり或造る黒檀の代をあらう

問 歐羅巴の了ハ何の頃より之を知れりや

答 ドクトル・官アリーストレイ^名人^名が圖を畫く

者不之を用ゐるを教へて一千七百七十年^我年^和と申す也之を知るものあり

問 近時の發明に因り此膠を用ゆるに少く衰へざりや、

答 然り、先此物より製したる許多の物品を方今ハ「ゲッタペルチヤ」に製するに成りたり、

問 「ゲッタペルチヤ」とハ怎麼様のもありや、
答 新嘉坡及び婆羅の島々に産する樹液の乾きたるものあり、

問 其二島ハ何の處にありや、
答 亞細亞洲印土斯當の東濱にあり、

問 其地に「ゲッタペルチヤ」の産するものに心付ハ誰そや、

答 千八百四十三年我天保四年於「ドクトル」名官「モントゴメリ」名人之に注意したり、

問 其膠を得るに樹ハ大ありや、
答 然り、其ハ直径六尺のもの往々之あり、其木材ハ家作に用ふるに可なり、

問 其液ハ怎麼様にして之を得るや、
答 皮面に刻紋を入るれば乳汁様の液流出し、

其液速に凝結をゆるり、

問 此物何の目的の用あるや、

答 靴子及び靴子の底・圖画の匡・外科の繃帶・車索・筒管及び其他の諸物を製し并に衣服等を水の浸透せざる様にする為の用ふ、

問 「ゲッタペルチヤ」の尤ある性質ハ甚麼様ありや、

答 寒氣及び溼氣に侵さるゝとあく熱湯に浸せば軟ふあひて得べし、而して軟うにあふ時ハ各種の形よ之を造るをも得べし、甚だ膠着する性質にれども、抹紙膠の如き粘着性ある

とあり、

問 石筆^{ペン}ハ黒鉛^鉛から造らざらや、

答 否、黒鉛の名ハ甚だ宜しからば、一種稀有の雜金を以て成るものありて、學問上より之を「アラムバゴ」と名づけ共、坑戸ハ之を「カド」と名づく、此ハ軟柔油様の質にして版石^{スレ}層^{カキ}の間より三四斤の塊片を採りて見るものあり、

問 此金の最上品を出す坑ハ世界中何の處にありや、

答 「カムブルランド」英國の「ホルローデル」

至正信備材

名地 在り、此處より其産する膠一くして
四年乃至七年ハ只一回鑿開し、單一人より一
小時間ハ二十「バウ」の價のものを得べし
といひ、又其量を十分掘取し後ハ念入れり再
び之を填め塞ぐあり、

問 石墨の坑を毎年開くは近する必要あり
ぞりや、

答 然り、其用ハ供するに速に不足とあるべき
を恐るればなり、

問 石墨を石筆に造るふハ其製法ハ之をぞや、

答 然り、先、油中に煮て甚だ細き方形の條に鋸

截し之を杉木シノの一小片ハ截刺せる小溝
中に簞シノこゝ其上ハ他の小木片を膠着する也、

問 石墨坑ハ只一個處ありぞり知れざりや、

答 然り、され共近時數個處ハ於てこれを見出

したり、然れ共其坑より出せる品甚だ粗悪に
し砂の如く且堅硬あり、英國ハ了書記に用
ゐる良好の石筆ハ年々百千の輸出ハ要求せ
られたり、

問 膠カウハ如何なるものぞりや、

三編上 二十 支那信備材

答 獸類の皮及び神經を煮て粘汁とふく時ハ
膠とふるべし、

問 画筆ハ如何してこれを製するや、

答 駱駝の毛を翎翹に籍こむなり、

問 駱駝乃毛に如何ふる妙處有りや、

答 軟爪にして且細し、是故に印土ぬす甚だ粘
着する婦人の義服にこれを以て製するべし、

問 刷毛ハ何の毛を用ふるや、

答 豚乃毛を用ふ豚毛ハ鞭子匠鐵の代りも亦
用ふるなり、

問 海棉トハ如何様のものなりや、

答 此ハ海水を被むる岩礁ハ固着する所の動
物、
るりと云つり、

問 其生育ハ甚だ速くならざりや、

答 然り之を全く取除かざる先と只二年ふて
石上に充満するも屢あり、

問 通常何地より之を運輸し來れりや、

答 公私瑠玕諾玻ハルバリヤ諸邦及び多島海
より來る、

問 公私瑠玕諾玻ハ何地ハ在りや、

答 公私瑠玕諾玻ハルバリヤ諸邦及び多島海
より來る、

答 歐羅巴に在り、土耳其の首府あり、

問 「バルバリー」の諸邦ハ何地カありヤ、

答 阿非利加の北ハ在リ、

問 海綿ハ何の為ニ用立ツヤ、

答 外科に用立ツアリ、又画工ニ於テハ彩画を

洗淨シテ其色彩を掃クニ用メ、又家什ト

一用ス、

問 枹ヒツトハ何物アリヤ、

答 一美樹の皮をリ、而シテ其樹ハ大緑櫛の一

種ナリ、

問 其ハ何地ニ産スルヤ、

答 以太利、是班牙、葡萄牙及以歐羅巴洲他の南

部諸國ニ産ス、

問 其皮を剥クニ樹を損スルコトアリヤ、

答 無シ、其故ハ枹ハ實に死皮を以テアリ、

而シテ此樹約十五年の齡ニ至ル時ハ其皮を

剥クニ相當シ、八年若クハ十年ニシテ剥クニ

リ屢々ニシテ、

問 之を製スルニ如何スル方シカタ子ヲ以テセリヤ、

答 水ニ煮テ烈火ニ乾カス、

問 くらを何の用か充つるや

答 専ら罌子の栓塞に用ゐる網を浮かすに用ゐる

河に於て船路を示す為か用ゐる、鞋底に用ゐる、又

水泳の短衣に用ゐる

問 埃及人の袍を以て棺を造らざりや

答 然り、其技は薩摩を塗る人跡を野蓄する

ため樹油様の聚成物を以て之を掩ふあり、

問 是斑牙黒と如何あるものありや、印刷家

に於て甚だ多く之を用ゐたり、

答 袍を黒焼かしたる物あり袍屑は通常之が

ためか賣らるべし、

問 蠟燭ハ尤も何を以て製するや

答 カルロ^ロ脂^脂を以て製す、

問 カルロ^ロと如何のものありや

答 羊及び牛の脂なり、

問 脂を製するに甚だ様あるにや

答 度々煮て水に溶し明礬を加へて清浄か

し、

問 型蠟燭ハ如何かして製するや

答 溶したる脂を錫型^型中^中に注^注入^入る其正^正中^中に棉^棉

糸を固定し、

問 厨用の蠟燭ハ如何して製するや、

問 長條は燭心を結着けて熱く溶うたる蠟

は浸れし二三回ふして蠟燭固有の大とある
不至る、

問 英國の何王の治世は脂製蠟燭を奢侈とせ

しや、

答 「ヘンリー王第三の時代あり、當時は通例木

杵を燃やしたりと云、

問 英國の何王往昔蠟燭より時を測りしや、

答 「アルフレット・ザ・グレート王あり、此王一種の

蠟燭を製して廣狹諸色の輪及び帯を画りし

めたり、

問 何の為に此の如くせしや、

答 王は其蠟燭の燃焼を因りて一夏は幾何許

の時間を費せしやを知らんとせしあり、

問 其工夫は王の意は全く適ひしや、

答 否、王は其蠟燭を風吹き来れば速に燃へ盡

るを知らず、以て之を挿るに燈籠をとり能
はざるを發明したり、

問 唐山の燈籠祭と稱する宏麗なる祭祀あらばや

答 有り、新年とあり、後十五日不在り、其夜又ハ許多透明の燈を戶外に懸くるハ故ハ外國の人ハ全國恰ハ仙境ランドリト如ク思はるハあり

問 唐山の俗ハ貴賤となく此流風ハ染まざるや

答 染またり、富貴の人ハ日々儉約して其食膳衣類調度の失費を惜み以て其燈籠ハ財を費

すかり、而して其中ハ二千兩を費はるもの亦之あり

問 唐山の内地ハ入るハ歐羅巴の人ハ殆ト適ハ難きや

答 然り、唐山の民ハ外國人ハ交ハるを嫌ふハ因り、俱一二港ハ於テ茶及び其他の商物を輸出するの之、而して外國の旅人内地ハ入れハ大ハ危害を被むるナリ

問 其鎖國の風習を廢止セしむるを得一ハ誰そや

答

「ロルト」（英）エルヂと云人千八百五十八年
我安政 唐山戦争の後之を廢止せしめたり、
而して我輩今條約に因りて唐國の諸部は旅
行するの許可を得たり、

問

粗燭「ラス」ハ如何して之を製せりや、

答

厨用蠟燭と同法を以て製すれ共只其燭心
を乾きたる藺の碎裂する者より製するは異
と異なるのみ、

問

蠟樹「タル」と名くる一種の樹有りや、

答

有り、此樹ハ唐山に於て産せり、此樹の實ハ

粟の如き殻中か有りて三個の自き核より成
れり、

問

支那人ハ其核より如何して蠟燭を製せり
や、

答

其核を溶して少許の油を加へ之を朱ふて
染むるあり、此物脂製蠟燭より上品とふも共

問

密蠟製蠟燭ハ如何して燭心を製せりや、

答

乾きたる木の薄片ハ燈心を卷きて製す、

問

密蠟製蠟燭ハ如何して製せりや、

答 脂の代に蜜蠟を溶いて製を、而して其心ハ麻紙を用ゐるハ決して之を剪るハ及べばと云、

問 テーブルスに如何乃蠟燭ありや、

答 蜜蠟製蠟燭の其大々種々小するものうて華式其外寺院の禮典ハ燃焼ハ、

問 テーブルスを約百年間昼夜共ハ燃焼するハ誰の墳墓ありや、

答 「ベンリ」第五の墳墓なり、然れ共此の如き風習ハ改革の時悉く之を廢止したり、

問 蜜蠟ハ如何採のものなりや、

答 蜜蜂の巢を造る材あり、其色黄ゆいて蜜の如し、

問 白蠟ハ甚麽様のものありや、

答 蜜蠟を水に溶いて日及び大氣ハ晒して製するなり、

問 麻キヲとハ如何あるものありや、

答 木本の如き羨ある一年草の莖葉細く、花青きものを以て之を製するあり、

問 其ハ何處ハ産びるや、

答 大不列顛及び阿爾蘭又魯西亞・荷蘭及びフランス又世界中他ノ諸部小島之を産び

問 其功用ハ如何

答 襦袢・袴・布室布及び其他許多ノ物件トあり布を織成ナク用ふ

問 之れを採収するハ如何セリヤ

答 第三月及び第四月ノ之を蔕ヲ熟スル時ハ根より引抜テ水ノ漬ケ泡醸ヲ起セバ其皮即チ麻絲ノ自ら分リカスルアリ

問 其他尚ホ之を要セリヤ

答 然リ其絲ハ特に整列シ且其用ふべき目的ハ應ルテ紡ガテ又布ヲ織リテ而シテ後ノ之を漂サラス白キスルアリ

問 漂白トハ如何ノ変ヲ云フヤ

答 織布ヲ日光及び大氣ニ當テ、白クアル法ト云フアリ、若シ織布織工ノ手ヨリ出ルる至ルニ至ル時ハ麻絲ノ素色ノ淡ク茶色あり、

問 其工業ハ如何ニ落成ス及ベリヤ

答 其始メハ之ヲ糠及び水ニ浸シ次ニ好ク洗ヒ

問 了草の上の展げ以て水を乾くはあり、
其次ハそれ如何せりや、

答 水を桶に満て、之に木灰の強きものを混
合して布上の散布し、且之を洗ひ又乾かして
為小展開するに宜く數回に及ぶべし、

問 往日ハ麻布を屢略餘パツルに浸漬するに
あさや、

答 然り、而して後能く之の水を注ぎつけ且屢
石鹼と水と灰以て洗へば愉快の白色をあら
あり、

問 此繁雜シカなる手法を専ら手短かにするは
とや、

答 有り、略餘の代としてコロリン若くハ硫黄
乃烟氣を用ゐたり、

問 「コロリン」と如何なるとありや、
答 烈息ある綠色瓦斯にして速に其色彩を褪
そあり、

問 麻を布に製するに何地を以て有名かと
とるや、

答 阿尔蘭の「オルストル州・蘇格蘭の「ドンダ」

及び「ガラスゴウ」の二城及び「ヨルクシヤル」及び「
リンカシヤル」の「エ」作局部あり、

問 此有益なる麻草ハ元來何國より來れるや、

答 泥祿河より年々出水をる埃及國より來る

とせり、

問 麻布の為ハ有名なる埃及國より出るを最

誠ら〜〜びや、

答 然り、蓋し其證據今ハ尚多く存するを以て

ふり、麻絲ハ總て手ふて紕ると雖も其精微な

るよ之を布ハ織ルバ「ライフィン・アール」織空なる

と名くる程ハ細微ありとせり、

問 此「支業」を過稱するに「史録家」如何ハ之を記

載せりや、

答 其絲を以て網を編成もや、一團の人衆よく

心を合せされば得比且一人の出を所全林を

取巻く許ありと云り、

問 「井ルトン」名地の女候針工をみせし「支」を記し

て其細微なる織布を許多の縁飾を以て羨麗

みせしを云へざりや、

答 然り、金絲を針ハ貫きて布上ハ諸動物の圖

画を繡縫し、又屢金絲を布中に織こむたれば、
一個の襦袢を造るに十リブル三兩ニブル許ハ我
を費したるも屢ありと云、

問 不列顛諸島の内麻布の為有名あるハ何
島ありや、

答 アル蘭あり、此島ハゼームス第一の治世中
其本國に隨従するを嫌ひ、ロンドンデルリ
イノコレライン地名ハ居留したる蘇格蘭人の
藩屬地あり、

問 其地ハ其國乃尤ふる製造局ある處ハあら

そや、

答 然り、麻草ハ其地ハ大ニ注意して培養し
益ありと云、

問 諸人の肌膚ハ纏へる者ハアル蘭産の布ハ
何らや、

答 然り、其ハ麻を以て造りたるものなり、之
をアル蘭産麻布と名く、而してアル蘭の北部
あるベルハスト、カルリクヘルゴス及ビロニ
ドンデルリの諸邑ハ於て勝しく之を製し、
問 コウズトハ如何様のものありや、

答 絹糸を以て製したる透明なる薄き織物

一て縞及び模様あり飾の為不好き物品あり

問 此良品に金糸を以て甚だ立派な縁飾を附

くるへ何國の人民ありや

答 土耳其及びセルビアの人民あり

問 ケムブリックといふ甚だ模様の子ありや

答 麻よて織たる諸布中最微細なるものあり

而して其名義へ之を始めて織出せしケムブ

レイ地名より採れりといふ

問 ケムブレイといふ何地なかりや

答 シケルト河畔に在る佛國の嚴重な胸壁を

以て護衛せる邑あり其地の古寺に「テレマ

ラス經文の有名なる作者へ子口に葬ホムられた

り

問 「ノウニ」といふ甚だ模様のもなりや

答 薄き室内用の布あり其始め「エリサベト」女

王の治世に甚だ少量に英國に舶来し富家

にて之を領飾テリカクシに用ゐたり

問 此精緻なる物品に就て「ストウ」人如何様

の説話をあせりや

答 他ハ異常奇巧の物品として説話せり、是ハ因テ程ハ蜘蛛絲膜の領飾を装けざれば能ハざるの戯言を説くるハ至れり、

問 此の如く薄き物品より領飾を造るハ如何ある困苦を生ぜしや、

答 之に糊して強鞆するの物品を造るハ但し之を知れる人英國ハ曾てあかりに此法を知れる荷蘭の婦人「ギンゲン」と云へる者倫敦ハ来り始めて英國ハ糊するに教へたり、

問 ダマスジとは如何様のものなりや、

答 羨ある絹或ハ麻布に大なる花卉を画す或ハ模様を織出さるものあり、而して其ダマスジと名けしハ叙里亚の達馬斯谷ハ於て創意せし因る、

問 今其製造ハ於て表著あるハ何地ありや、

答 「フランドルス部内の「トウルナイ及び三鞭部内の「シャロンス」あり、而して近時ハ英國ハ非常ハ好く之を織出すハ至れり、

問 達馬斯谷ハ尚此他の物品ハ有名ありや、

答 然り、羨ある箱類及び良好の鞍・韃を以て名
 聲あり、但し曾て有名ありし又物の製造ハ
 ハや也何るそあり、

幼童手引草三編卷之上終

